

を、原則日帰り入院で行っております。クリニックの外来でも行うことも出来ますが、リスクのある検査ですので、必要に応じて紹介いただければ幸いです。血液検査の結果だけで食物アレルギーとして、除去を指導することはしないことが大切です。少し厳しい表現で申し訳ありませんが、除去指導をする場合は、解除まで（もしくは継続）の指導が必要です。参考症例として、普通に卵焼を食べている児の血液検査結果を提示します。（表①）
小児期の食物アレルギーは治ることが多いのも特徴です。食事は楽しいものであるという、当たり前の生活を、全ての方に届けていきたいと思えます。



-Information-

第 158 回 救急症例検討会が開催されました。

令和 5 年 1 月 20 日（金）大原総合病院 5F レストランにて「第 158 回救急症例検討会」が開催されました。1 年次研修医の橋本知樹医師がプレゼンテーションを行い、司会進行を総合診療科主任部長菅藤賢治医師が担当しました。今回も新型コロナウイルス感染防止対策を実施しながら開催されました。2 年次研修医と 1 年次研修医が一緒になるようグループに分かれ、積極的に討論し発表を行いました。菅藤主任部長からは、患者さんからの情報がいかに重要だということ、また CT や MRI が無い病院だったとして今回のような症状の患者さんが来た場合どうするか考えておくようにと勉強会終了後も課題が出されました。



第 94 回 大原総合病院臨床病理カンファレンスが開催されました。

令和 5 年 1 月 26 日（木）「大原総合病院第 94 回 CPC（臨床病理カンファレンス）」が開催され、研修医、指導医、コメディカル合わせて 23 名が参加しました。臨床部門を 2 年次研修医の安藤達也医師、1 年次研修医の北口史也医師、病理部門を 2 年次研修医の本多潤医師、1 年次研修医の穴戸祥子医師が担当し、司会進行を腎臓内科主任部長の沼田暁彦医師が行いました。今回の症例は「原因不明の心停止をきたした症例」と題して発表され、担当医であった循環器内科副部長の赤間浄医師からも当時の説明があり、循環器内科の先生方も多く参加し、大変貴重な症例に研修医をはじめ指導医からも多くの質問が投げかけられました。最後に、病理診断科主任部長内海康文医師から着目すべきポイントや診断を導くための考え方などについて指導があり、これからの研修に役立つ知識を学ぶことができました。



大原記念財団の理念

人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一歩先行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原総合病院 総合患者支援センター

発行者 一般財団法人大原記念財団

理事長 佐藤 勝彦

電話 024(526)0371 ダイヤルイン

FAX 024(526)0935

代表 024(526)0300

住所 福島市上町 6 番 1 号

大原記念財団職員行動規範 10 カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しいことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。